

宝物集 中（正保五年版）

栃山文学園大学デジタルライブラリー

栃山文学園大学図書館



筆名街城下
長圓寺



61B1217

宝物集中

長圓寺

和室は死苦と云ふ一切のうきみ多ひてこそ、身か
死者とれては八百室を數勢内り大悲盡附く
つれぬ事ありては生の世もあらずよりて此病せ
りとまむ。古くみ眼からてつまむもすましわらみ
びくらわゆりも尽くして宝葉なりあまへ神よわく路
かく仏よあけあまく甲斐や。承保雅忠う事くも
ケル保恩清明まうりうらうるうり死妙のたえを死
のまゆの万かつてくせのままでくをくじるう
う死をもつむらうくまくふ名弱かつきまくみわら
うりあら様の名強えまどあらきほくまくわらひせ

まくらやまくらを寝て、足あつりかうすとつうのゆめめび
てつるかの間あうわくじすとんともぬま一日中附もとまき
と死歌をとすりすと、只獨りうめくゆじのむら
とくありゆふ画。今生の歌つまくまは面とくゑ
一 神ふかまことあそぶく水とさひつてよそへあ
桂じみやまとあみけうもれも孟嘗君う二ふの客も冥途
乃ふひよそもあひ石季倫う二千の女も生と死とあ
くわすゆめりけりやく有の写ふむひめくの苦
患とくじて炎魔方歎うつて、鬼の怪とたゞ御
時鬼うさうとらんすとく、淨婆梨の境すりゆく
あくまとへ渡りかへ死と名ふみ妻婆せ界れわく

子ちん興ちうとすまくわら死とけくと生と死ふとハ尺
ゆふゆかくとて、まくわらぬりのせだくとほのゆぢ
ゆくはのすかくけめき獄卒うひかくとて、陶
太集郎よあがお室及玉位、餓食絶時、五臣者唯戒布施ふ
放逸今世後世、佛伴、わりけみのへまくらんかうま
カ、食乃も、うかをし、以へ力おきこらへた、戒と布施
とくとせの後世乃ばかりと現りうえあう、實え冥々
うて獨行賊産、うつよ修のたぐふとくとり摩訶止
観ふみくらり、但金瘞え、再生後今世盛位死遂將近冥
魔王欲往前路、安資糧未住、中有安所、くそりばく
ゆうひ生れくかんち今ううりすたぬあくて、はあふえな

卷之十

三

中をかすめんとすきへかのと見ゆてありゆとは
えんぬのほひとあらむとる一とくとくの魂
をうふ歎率がにれどもうかうてえづの呵責
すゑ坐とて大國の堯舜の賢もと名のみ残りあり
我朝の姫君と鷹の脛の帝もかけどもうちあ行ひに
そんや月の雲空かわそとや揚美妃李まみた
えありしじこととくと本頭馬頭がありとのこ
えす衣通姫小野小町やそりかりとあらゆ阿房
刑部もあらむか一奏の始曾の虎狼の心ありし
梁乃武帝乃本尊也けりとお光保昌もあら

ものゝへりやく也唯衡致賴クよどきをらむ一人
もそ處のめぐみを三金の古物よりぬるよのけり
ゆゑ入をかきづら山よすりて人の梵志もはがふ
死苦とゆゑつゝ事かしひとあわすめうせ運び
仰
うちやりとへまのへやちふれりと

入日が朝よひやのまゆゆの處ハ林あふ野あ
むかきくづるむかへ死して又墓向むかへ屍
ものうて墓う手のむすめり免ハゆまで冥途ノ
タリみをくわむし人形うあまと御ぬさん
ぬさんと深の頃うあり

葉ぬうにひく飛ひとせ

けのすゑへせよとあり

僧都歌宿りとす

いのうとほのうといひとひのう
ひあめりとひめり

とくへ

みどりのうとほのうとす

ちよしとふとせよとあら

寛盛聖師

おもむきすみをそれうそ
れうそとぞうさんとね

おもむきすみを

せんまほせんやまか

そのかみくねひのう

とくへ

おもむきすみを

うりのめみのう

おもむきすみを

うりのめみとあら

とくへ

おもむきすみとくへ

うらのまよ
宇治在住しますのう

月の内へじてくわだう

かゝる山のかくゆうへ

便ふあんこのう

ゆきと月とあはねあはき

みせのかくとうらうりこを

せんを走るに裏旅

夏かにあすへなよひてま

うつはまきまくらうりそ

中納言のう

つるのゆうかがいはうか

人の浦の浦のうへ

ゆうゆうゆうへくとくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくはむれどくもくもくとくはくはくはくはく
尾うくとくうくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

春のせのうらうらとあてうねや

人とくとくとくとくとくとくとくとくとく

因縁の因縁のうゑ

らめりとふれぬほくうくすくすく

あまかへるくとくとくとくとくとくとくとく

在ありありする

まくやまくのくわよかく

人ノアシタシミモコ

猿人トシ

トシウハシタニツシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ
ク一行ひ周梨ハ貨殖ヨリムシナシ平成ニ室ハ酒樂の
アシタシハシモトシ
アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ
オハナモ別離苦トヤヒヨリモトシ
アセドリノ宿泊モテスミトモクヘ枕ヲ
アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ
アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ
鬼廟ノ禰モヤリケレハシモトシ
母ノアシタシハシモトシ

アシタシハシモトシ

人情のよき處

まくらへのうその御事とほえあひふるむわらひす一
う死せの列のまちそく御けを充かふ道のまひきハ親
やれちがわせともゆきゆきゆつと御君かくも
御内朝一あんざう聖跡御のまきく薄う
タク波タク角りて是と御下す

子からかく高齢へれすうゆゑ

まよのみやふきひなす

一筆致伊勢のゆすに之れのゆる舉賢のうのあらまを考へ

て時より事の公達きみだらありとすとくとくひへくもくか
ゆせりの聲こゑの山さんがちうづりうれりひよしやの君
りとくらがいをそんそ世せえん寺てらの樹きの木木なり
かく令終こうしゆう波定はざまは生極なまごくあくよ津つとほきのあくよ
金かなてか織おりる織架おりかとたなこすすり織おりの義おかくらよ
けうてかうとめつけ

あらわすもううのむかひゆふ

本方ノ帝ヲモハセテ御ノクアムモリオウケヒニテ
モハシモモカシモハサリテハシモカモハセテ

とく候てとあらへやどきの候ま

ミタリムとひかへしん

一氣丸くきのむへ候一氣院つましもかくゆーく
ほのくどもあせりてぬきよりわたり候ひがと上あう
院の西邊へ渡りよ

みつゝふはやそあらすとく候め

くちくぬかそへこうじめ

中納てまひ候あらむけまへやうて尾うありて六月う

三氣院候よりみる

かわまわぬうれゆとくちく

なみそくにすく海のうそ

セーリのあおとくもく傍る奈良のりく

サクのひきじかくよやまとくらむ

せきとくを筋袖のしのぐと

又新あづぬひやくすゑとくわくちや匱に二君小

人ほとくあくせくすゑとくわくのわくくやくりゆあ

門へ候ては源すありて笠置とくすゑよ義とくわくと

けくく座ては源すありて笠置とくすゑよ義とくわくと

しらきれとくわくとくわくのまくわくくちりけく

くまうりてお珠と一財りくすりてりあくわくあく
くよくすりあくわくえとくわくとくわくとくわくとくわく

おア思ひあきよひのうてへ松陰のまかと
アリて晴れあゆうと空へれりあらゆふとほれり
もあつむめうめうとそりけふ事力かすこせくゆ
くとみるまきの角くとも角くやううりけとほれあら
てわざりりりをめうとめうとめうとめうと
ぬまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

みかへはまかうあくこにかりぬけり
トウモロコシよろじきさうせよ
まんびの署^よ雄とすの山利とかけきをもひう
奉ちて天をもむ様^よのとくわく傳^つひ

みほりつりす。せせらわせり
新あく蜀とそよゆのれどもまほそそそのれ
まみを失ふたれどもとより今も源氏は豈く海揚へて
わり又源通よりうやけきとわざうひをさめう
ゆまは、只も十一年の代綴つてをほひくのへ減らう
くかとせひく摩禍^{マハ}海^{シマ}より約^{イハ}かくへかしむ所
の内梅社^{メイザ}とくとくかきうれく菩提樹^{ボダツ}のみをか
りくは、摩禍の風^{マハノキ}、跋提河^{バヂ}の波^{ハタカ}を角^{カタ}
して十齋^{セイ}後^{アフ}のすが十六大國^{シヂ}の三九方^{ミクニ}の
立生^{タケル}のものかみるのみをあくつかにまへた^{ハタカ}も
うとあれをとほくとほくよきむは、時幡梵^{モリガタ}

波根^{ハシル}が傾入滅我^{ハシル}入滅^{モテ}えあかりてかわりて
也^{ハシル}新^{ハシル}の四^{ハシル}滅期^{ハシル}わくもうてあり死^{ハシル}ひくり
り^{ハシル}却^{ハシル}三^{ハシル}世^{ハシル}易^{ハシル}よ^{ハシル}けり寧^{ハシル}とかかげるゆ
そみ^{ハシル}行^{ハシル}ひあ^{ハシル}生^{ハシル}あ^{ハシル}めのう^{ハシル}ほわたりありわ
み^{ハシル}のへゆす^{ハシル}れあり^{ハシル}きと^{ハシル}せ^{ハシル}減^{ハシル}舍^{ハシル}を^{ハシル}離^{ハシル}
よ^{ハシル}すすむ^{ハシル}あ^{ハシル}ら^{ハシル}離^{ハシル}きのほ^{ハシル}りぬ^{ハシル}小^{ハシル}三^{ハシル}事^{ハシル}守^{ハシル}
内^{ハシル}五^{ハシル}六^{ハシル}七^{ハシル}八^{ハシル}は^{ハシル}ぬ^{ハシル}と^{ハシル}宿^{ハシル}ひつまん^{ハシル}や湯^{ハシル}世^{ハシル}の^{ハシル}
も^{ハシル}かわ^{ハシル}て^{ハシル}と^{ハシル}や^{ハシル}て^{ハシル}う^{ハシル}う^{ハシル}み^{ハシル}う^{ハシル}あ^{ハシル}つ^{ハシル}い
と^{ハシル}清^{ハシル}か^{ハシル}あ^{ハシル}柳^{ハシル}や^{ハシル}か^{ハシル}り^{ハシル}調^{ハシル}和^{ハシル}の^{ハシル}相^{ハシル}よ^{ハシル}
生^{ハシル}者^{ハシル}也^{ハシル}滅^{ハシル}教^{ハシル}も^{ハシル}免^{ハシル}梅^{ハシル}相^{ハシル}柳^{ハシル}も^{ハシル}尽^{ハシル}衰^{ハシル}天^{ハシル}人^{ハシル}於^{ハシル}
内^{ハシル}衰^{ハシル}日^{ハシル}も^{ハシル}と^{ハシル}入^{ハシル}涅^{ハシル}林^{ハシル}と^{ハシル}と^{ハシル}け^{ハシル}と^{ハシル}候^{ハシル}ち^{ハシル}

カタタヒアツミキサキシムトスミ

タマガキモアリタモの月あ

オセ^{ハシル}よ未^{ハシル}不^{ハシル}以^{ハシル}昔^{ハシル}も^{ハシル}の^{ハシル}力^{ハシル}地^{ハシル}と^{ハシル}ひ^{ハシル}小^{ハシル}ひ^{ハシル}す^{ハシル}
も^{ハシル}あ^{ハシル}ま^{ハシル}一^{ハシル}新^{ハシル}も^{ハシル}高^{ハシル}喜^{ハシル}の^{ハシル}日^{ハシル}煙^{ハシル}は^{ハシル}も^{ハシル}食^{ハシル}
に^{ハシル}ゆ^{ハシル}り^{ハシル}と^{ハシル}じ^{ハシル}わ^{ハシル}の^{ハシル}冷^{ハシル}も^{ハシル}あ^{ハシル}の^{ハシル}も^{ハシル}衣^{ハシル}と^{ハシル}ゆ^{ハシル}
も^{ハシル}あ^{ハシル}して^{ハシル}就^{ハシル}水^{ハシル}暑^{ハシル}日^{ハシル}風^{ハシル}止^{ハシル}と^{ハシル}か^{ハシル}風^{ハシル}ハ^{ハシル}あ
は^{ハシル}う^{ハシル}の^{ハシル}ひ^{ハシル}み^{ハシル}ふ^{ハシル}も^{ハシル}は^{ハシル}う^{ハシル}う^{ハシル}か^{ハシル}じ
も^{ハシル}と^{ハシル}そ^{ハシル}け^{ハシル}り^{ハシル}の^{ハシル}つ^{ハシル}わ^{ハシル}か^{ハシル}も^{ハシル}ひ^{ハシル}ん^{ハシル}拘^{ハシル}よ^{ハシル}う^{ハシル}を
け^{ハシル}あ^{ハシル}カ^{ハシル}ゆ^{ハシル}き^{ハシル}ゆ^{ハシル}か^{ハシル}り^{ハシル}あ^{ハシル}や^{ハシル}み^{ハシル}そ^{ハシル}み^{ハシル}

タマヒ^{ハシル}も^{ハシル}あ^{ハシル}く^{ハシル}も^{ハシル}け^{ハシル}ま^{ハシル}

タマヒ^{ハシル}の^{ハシル}ひ^{ハシル}わ^{ハシル}え^{ハシル}徳^{ハシル}と^{ハシル}う^{ハシル}り^{ハシル}け^{ハシル}う^{ハシル}お^{ハシル}も^{ハシル}ひ^{ハシル}け^{ハシル}

中校室

あらわすにかみます後
きよかうひとよがむか

又わち人臣よりくわ後して別名うかがふれんなりふ
ありて君の御みやこよりすにゆめ男おとこをよみぬ
ありて芦あしよりてうかみぞりてみく女

わづかにうつむけをそつれや
かふみくふかにとがうきみ
あひてわかりけくおひよを

アラカニヤハナムヘタマシル
ナニ來西の者ノアベウタリテ
觀世音菩薩ハ一切
應生乃物ノトク貪苦ヲアメトアラシテアマツク

ため小菩薩の行とお詠めの周囲
一前父と長母と母と摩戸死すより見え
まは早利才と速利とふたふみとらなり母は
あら女死すひとてを女父の長母とみに死す
世中のあらひあるは又とまぬけりとあらひ
アト小飢饉のときひめうて人々がうらもまほあ
ニアムと絶母すありて松葉森山と山よのういぬ
きは七日ありてうぬあみわりとくくそりあめたら
けりわくゆく絶母早打速れとあふのやくをせざとく
くくゆくゆくからりありその時二人の子とみのふ
みゆきて勢てやすく一切えまの食苦かじとた

卷之三

も貪苦^{うんく}がくまくらり本^{もと}をやりけり。草^{くさ}の代^しは元
年^{とし}ありて馬^{うま}のけと尼^{あま}のうて。此^こ長^{なが}壽^{じゆ}乃^の寺^{てら}だら
きわむく。今^い人^{ひと}を死^死すをだり。一^い本^{もと}のみを求^めふ。草^{くさ}
のまつり。生^う死^死すをかしこ^か。菩提^{ぼだい}と稱^めひ。そばに
みどりの木^きを立^たて。

も貪苦はんまくうるま本ゆきをやりけり堺のゆま先
年あたり日めけとゑれりうては長姫おさだの姫ひめう
えわゆくら人々死よせたり一木のみが未いまだ草
あひきり一木生れどもひ菩提ぼだいをゆくとゆく
みとづくのをまく

オハス盛隱だいりん者しやくとくべううりよはくゆのとくゆくわ
近ちかし國王こくおうの御奉ごぶつよどきもくらみて裏うら地震じしんあつ時ときへも
みとく御奉ごぶつの國くにハ被震ひしんふとそれなり事ことなりとく脅
威おどきとからき山さんと山さん奥おく激げきる山賊さんぞくとゆく一いつあひ
病びやうとけりと乃のあみ又またハ樹冠じいかんかく峰みねとくとくめい三
事こと山さんあひゆゆきまくとく山さん賊さんぞくとゆく一いつあひ

あはああはひもほのくありをあらすみうき
しがすすまと六盛院古とよこ
次よそそくやの快楽を教りとくとく徳よめ裏とまえ
まほげぬ事よへるがれうもみニヨリ絶の下
ちあで出三よ眼うろく室よねわうもみよ花の
くふるひのひより山乃すく林の中かすくらむくわ
きゆてくみ強よ余からてすからんじてばく
よめりてま重乃者患とくめめり善見城へすよ
らうううら鼻大城へすく劫婆神樹へりく
帝御りくと刀槍の下ひ肉と切破よあり元軍
荒の東ひがりうりしかく火燐の東ひがりよー帝

般は座の居すけ坐を燃殊の座のくへりやくし
き白玉乃血石ひがりしけりを衣食の石へかせあき
卫殊勝池の水のみよがりしがくを引の、ゆの湯へ
あらうきりは種の取病ひわゆりーかく燃殊の
丸をハクハクひりさへ妙の毛繕ひくみせくと
毒蛇のりゆう般の毛毛繕ひり死葬の天祐が應
トトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトトト
西宮金羅よと上欲通時の生太苦惱地獄而苦痛十六
及一と云ひてうりひのうのうのうみせびこの
りゆうへくはう十六をくじみ苦ひつよどよ
ほとどりゆうは仏の六法のうちひまく苦かぬ不

可も死と生とありてとぞくのうかり
せりけまへば汝とあけきやれど死ぬるか
うとあつてそくは死ぬる死ぬるすとすよ
善惡せんや冥途のほれしむる者としも
かのそとやソアトスケ六度とはもがきてとしは
僧侶はくそむじなりハソトはかと汝の爲めとしも
いおはえりあしてありとまとうがよの爲めとしも
一そくやう度みテトキヤう度もくねようす
乃子けにとてを始生死りみ、傷く万劫のあひ
か御くわゆも世ノ利益よりわくりゆくの御生六
段うちんりんすとあまに御難乃のち小是諸罪の

死生の教業の因縁とりのくら僧祇劫と云せとくニ空の
名をきくとくより所生は仏はう來はうたなり
あれとも能事のとくにあれも他事無く作ど
まうせとくらふあがめてとくに歎佛因縁の事かしれ
てはづくとゆく成佛せずしとくに是や
人ハは漸うゆよ成仏よゆてとくに是や
すくはゆよゆ成仏よゆてとくに是や
ゆくはゆよゆ成仏よゆてとくに是や
一極樂淨土おは生れうなづかのゆく十二門と五
度やオーモクシテセツルモカホナセ

寶箱口
二三室と候

十五
才二年
の禁まくわん

威とかくたまの下　才ては行基と仰せ下
才ては仰よかじと教と仰せ下　才ては生まゆ
内業潔と懺悔す下　才てはよりらくは布施と仰
生下　才ては觀念とものふうと仰下　才九よ
善知識すゆ下　才十小佛塔は觀念とうめよ
才十一は經題と詔書下　才十二は妙法蓮華經と
ひもを落す　されば蟹とおりかくほりあり又
かくもよそせしるのうありとへ經わゆるのうあり
トかくはゆめありみがのうかりあらひ
らひぬゑのねとあつ　樂天小竹とさくや
寧王

卷之三

八巻
八巻をあきむ葉書の琴と川人乃ひハ琴のよわはれう
魚は十二のつとくらやまつまくまくもゆきの内
いづるごとほとめぬりみか仙道す入魔のゆきをはせ
き死くほく死がくうひくゆきよりゆき死す
せよひんとおうてち歌遁世して死むかゆり
ゆく死すだらうむろり也万法のゆきふふそそに
列のはゆく琴のとがって津土とがくゆき死す
それく永歌はゆく人あるよわくほのめはよのゆく
らむちあんじとくげくらむとがくしんじのへと死す
かちうしきり梅林の林よへへうらよのつ
かうくく磨の中乃遙ハたまゆすくりゆきよ

うぬ身へ万まよはれねよあらうか天乃相よ
のかりあく遠草せ事のもの妙はとくに山の里ふ
るゆめしよらうきて松陰を拂ふ所には死裡
かへ不報遊魂か遙梵志とくくすりばるなりそめ
めやわ支友よらう一ゆきうきと紀念よもくめ
とかりの外のものありいよとゆひては般
般のあたえときては巖根山乃麻ひ御とくあく
くはあたえだるへうききのきてるをとおこほ下は
一ゆき御根にうちあらあて佛多そりくはよ一念り
いあんとおこは百子不入塔とくあや勝ちうり
アセモ金の現法と、お顕からうまじやもくとらをかに

て御とよひととりとおきよがソトとす、これに般
華者經の本小切身のたゞとをして菩薩の功徳と
と死ゆたゞと善現義主の一切の病と滅しきりてくが
とくさんと一切の般惱の病と滅したゞ、牛乳羊乳の
牛人師かの乳と入とほが惱の牛乳羊乳の乳とくせ
ぬ又一切の害の牛乳如意密織するより一切の功徳
ノ中ふ菩薩の功徳すとまくらとくくりて密織
かからうめのびふくまくまの十萬とくまくとくじや
オニオニカミよめととやれを善賊童子が、ひると
むらうめのびふくまくまの十萬とくまくとくじや

卷之三

又夢の威助

卷之三

まのひきしらんそりさき

草薙の御盛

ままでふうをほもまくらわふ

つりのひのとよゆんとひよじ

爲乃食の漬れまわるひは連漬^{よせん}とちうけわうひと
圓のすうへ功^{こう}績^{せき}とほめとをやり一物の爲^{ため}をかくは
乃^{おの}延喜のゆとほせばんてもあとをやうなけのゆと
てれありたとを引えかひわり山地^{さんち}は又もとをさす
遠^{とお}れたりあそばむとすとをすまんとおひすくとをあ

い我^がとすまのとくせはすとえまんとおひすくとをあ
うる

人^{ひと}のとあらげてそくらまくはよ鶴のあくまみ
とまのまとす甲^{こう}装^ようてしゆゆもととありそ
とく者^{もの}の食^くきてひらう功^{こう}績^{せき}とほのまくは
そ^ののまのとすあらかうとくひきうと死^し人の十^{せん}
位^いとすあしきりすとく実^{じつ}途^ととあそびあひだめとすと
あうとま生^{なま}のあまを歌^{うた}かぬひう故^{ゆゑ}太^{おほ}なのみ聲^{こゑ}
大^{おほ}ひゆ^ゆとくとてうひをりけと六十^{ろくじゆ}の位^いとだめと
財^{ざい}へ一切^{ぜき}は付^つくものあそひわりあひしてほよわをゆ
よもゆく多^{おほ}くじうとすとせぬひりうとすとゆうの
今^{いま}乃^のが身^み支^し車^{くるま}かくは漬^{よせん}とすとまほ^{まほ}す
あめの櫻^{さくら}多^{おほ}種^{たね}と作^{つく}りけりの我^が年^{とし}の十^{じゆ}紀^き附^{つき}

お歸してぬるもゆきひりのとある也と云は
ヨリてゐるがありてたゞすきりじゝ七夜還俗を引
りの飛業をむだるよ大浪うみから一時飛くのを
我すもか七夜還俗を引飛ゆりてせうふわのうご
てせ夜をあそびら一功徳はうかしひもとは矣魔
主はかううどわをくれりあひくあひとまぬき
きりはもじやねどかくてもあがくう切力あまきあ
もい身りあすをもくらひとむくとむくとくくは
きりゆの極さなり

オニヨ三室とにして仏をかやとやらの諸佛のみが
三室をちかうて空とゆすゆすあり三室とやらの仏法

僧の三うかりぬよあもとひて成佛するよとむら
くや下佛釋迦涅槃今皆三界皆是我有其中元
生是吾ふとのくまほののの三界の應せみが我
ふかうと無生アリそれも父のゆくふくひまくと
あめとけむとくひくひくひくひくひくひくひく
又譬喻經と無生アリ時も蓮華のほまがこより
圓とが一七日まえか紀かの水かうちもやーみて
えいあうれどなむかに死生のよとくかひく
きを你らきりの百乃大教もお葉の死生に先
かまくはらく、又のあひとかへてお葉へけめらとお葉
あらゆの死へるのふと思ふをうへくとくとく

うへりうれむとやうめんはやけあへうれどあ
せんそくうふとえ紀よかうてりの國とのれいが
とふゆあきつけ世子へすぬるまかへまくらやさと
乃苦患と大聖世のものもとまくらわゆと
きるまかへ汝見佛國御のきらえんとあひとを
とよた恩教主の尸迦如來のゆかねかすけと
ゆわゆわつうほのくじれりうくわへとて六法ア
波瀬するせびと和象威アラシカ

ウ紀よりウ紀みくわを入れて

とあうあうと山の月

もやうとおきしては生懲戒とめりてぬるゆりゆ

薬師如來ハ一切薬生のやまひとくめて八菩薩と
ゆくらへとくらんとくらへとくへ 犯お貪瞋癡の三毒
の魔まの御けきハお難のわゆりとお如來方^{ひがた}お
ゆのまくりてすまやく生死の大歎とよたりゆくと
人死物のきづぬの内うかひぬまくまのうきみを
まちあくよ證要正念かくほれと薬師如來とたの
まれと以世の病氣ひとあくほれすのうんちんら
の薬病とれぞれかへへりあひととくすくねぬす
又大慈大悲無量身分と三千よへんとて十方の元
生とみうちりかへくらと六種よぎとと六法の群衆
とすひきよ詔事の如教よあくほひうそク蓮華

よすり来てとゆん理せ利害も人々がまことにほ
せくやあまうらへ又地善喜菩薩はまく氣まのう
あるまかきにありそのハ只せ妙事切れ天ア
かうゆて十方の福善菩薩とあめめし中
地善喜菩薩よりけられゆくあ葉妙せ乃花生を
はゆんらよは萬と一日おかりうゑがくがく
ゆきされとゆきもととおもと冥途のゆふわつて
行來も地善喜菩薩よりなり引守利生あわ
うゆくまきりひづは冥魔ととなりて中有の
鬼と争とあらひ八十ととなりて日暮とお飛と
すひま自業自業の飛まぬとかけよひあらじ
夜生ふうりて苦患としきふちのをかば毎日りぬ
乃比歎よりきのく飛人とあひる理よのう 造作
八達飛常念地善喜遊戯諸地歎皮室代え苦げ難文
のひがひらうとひとひのひのひりまくのよは善美
蔭と稱んせはりうのびうよへく苦としげじよ
空すりとひあくとひの次世の利益すもありがれ
末まわり死えりとおひくうなり——みすりが
おはれとひとひととけとつゆかへまりてううの
えゆのこはとまくせく年どろよげ焼田とてんじ
ううとひとあかくつとくはくをけうわう年う
ううとひとあかくつとくはくをけうわう年う

此がよじひわづと人をゆきまほば因を作らんと
あかくのとく縫うりけりやの度小ゆつまの因とほくう
うるえとくがじあつゝとははうりてわざんとせり
てもやううう傷身りにすとぞくゆく小因あて
うりとと縫うりてふそせらまそはうるあす一因と
わのちあ行ひの地うしとふとまて養ふらひ合ふと
男のとおひてみまづけ因とぞくらむうりとさかふ
ひくりはがのゆもうひよとつ見ゆりて尺五八内
よ足よづらはまをかりゆけりと又二束朱蘿の
わりふ紙す紙のわりけりうものわらはれのを 紙
あふての地着襷とじすのせりとあひて小紙す紙

わづ時めひの處を死しておもつてまことに
わづりうへるがくふひ脚の僅よんての死人と
山へどりお骨をもひそりそれよりからぬれと申と申
て六波羅よりまほりてしらべくの村生ほのせ
ひにたすけらひやうのくらまのとてかがはまは瘡と大
きをあす——又三井寺の因幡智興の炎くま重病とす
りく惱乱をあゆお歎もありひあくふ隱陽師晴のとよ
ひゆゑせりまともちう——晴のとよも空葉がたり
わづくまほりおひの阿ミカタ——わざくに経の本
のやか聞通のま恩とありまくとゆ命をさうり渡さん
わづもうううんとお智興やまのあひまことより
食ふるまとひのまえのま水をうのみと尺す
まとつまうじとよあす——證空の圓梨とよ古
中子源がの佐生あらむりわとかほされても法雲
明の跡の三世の契親ハ一世のびひととく圓せうまくを
一時のあくまく宿すかうるあかはは我は病を
むけ呻延の令にうらかとおがもとてつまに參
くまくとお智興がみとおがもてれまくつまのう
望びじとよひうへきとおがもとおがもとおがもと
うつむま連儀うまくおまくらあくまくとのま
うせせうのあくまくとおがもとおがもとおがもと
けりと母のありげくまとやく八十もあまうお母

とより極くのつかつてよしとせりけりと
他室うつもく 海鷗三事中 恩をふ然断 离恩へ云
あ矣報恩者とく人妻文をしてうりひの望みの事
ゆてんすとほんむひとあゆるすかーかんとすく
じかおへりのひゆとくわむとけりすうりのうりと仰あ
うせゆうかりゆきの報恩の恩の三事ともかきと申思せ
師のかんの三事ともかきて妻ふへまく恩の恩ゆ
きしてよ師道の恩は命とてかんくらむよ・命
とつひくすとよ師道ようりの葉高とみて惱れ
ゆすり智異のゆくかり徳をあまうひたゞく年

禁のままで登條乃本動よびひとよまうてられ師の
命にうりてよ葉病とけり病うくへゆまづく海鷗
命うてよくめくめくとつひくめくの不動の
眼うり紅の圓とくめくめく汝師乃命ふうく
めくめくよまれ汝めくめくとゆくとゆくとゆく
空屋すひやうてくめくの智異と命ふうくめくの十方三
世の法伝と一神分身かくつとくあくゆく・苦ま乃正
教みかくくのゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
をゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

身度えうひふの酒つゝ五万とつおれ
の御つまてたはくわもひて苦患とくゆみ酒未
應度尼ドウニ文部の風よすまく事りかの墓不よか
モけりその功力にうてはくづるあくつよ度未
てうちまらふ漸ハナケき地とがまつてつまんやをもゆ
して應度尼とくむむかまつてじ功徳つうりかくん
さねを漸引のまんと一重をもくあくまくへ切經百万
遍ハシマツとあ功徳も用とそり又も勝應度尼の功徳
あめあめあめあめあめあめあめあめあめ
からくく九条杖ムサシカツは拂拂ハラハラ百鬼ねりよゆきわひた
まくまく勝應度尼とくみく鬼タケ方カミ罪とくれきふ又も
三条の大御先行ヒメイリヤウがもももつ神泉園ミツミズとみ百鬼吹行
よあひなまよ乳母ヒメイの娘ヒメのえりからも勝應度尼とねひ
くみくみよ了をたもくらめひけとくまほりの
ぬあてら陽神ヒカリ刹サハつそくげ功徳としゆくかまつ
ゑくちんとくちんとくちんとくちんとく
淡ハラハラ成ルのせ立スルとくらへ破成ハリのせ立スルとくらを
きり墨モクのれと着キるは印ヒと傳ツバシす下シテ持成ハシマツ破成ハリ
とくらぬつてくは大靈オオアシよ名わり氣エとくみて正マサの
多ハ家タチあくこれとく重ヒヂハ家タチあくね傳ツバシハ破成ハリをも元
傳ツバシすまほ家タチくわせあくとあく地チ付スル三萬ミツマツハらく
織衣テキヌアカヒトは蓮華レンガのあとアフタとくの無ムりもあ

あまくさかふすまうねそそはせせんせんつらう
とくをあうかく弘濟大師ハ功徳の大德のゆく
あまうなりお法会よりそとの魚り釣りあわや
も遊り神とゆくしものとわくつをくじ縦歌と
よしーのとまうかそち遊とあるうりーくへ
一劫のる虫よまれうり又あうくわきがま財力なしに
よ光燈とよらくいしには五百枚のるたよしまれ
まへゆふくとあきほ源と体費するま本作りえぬ
力からては生極事とわうとめかり

宝物集中終

